

中華民國三十四年製

國語社經學學習讀本



# 目次

第一章	注音符號	一
第二章	聲音の區別	一、四聲音記號と發音法
		二、上平、二、下平、三、上聲、四、去聲
第三章	簡易會話	一、四聲變化の規則
第四章	白話短文	二、四聲變化の規則
第一課		一
第二課		二
第三課		三
第四課		四
第五課		五
第六課		六
第七課		七
第八課		八
第九課		九
第十課		十
第十一課		十一
第十二課		十二



13121110987654321 第第第 第第第  
 解為信金知慎知向謙處士讀救 章十十十  
 三二一 附六五四三

脫善友錢識重足上恭世心書人節節節 課課課  
 錄

二〇九八八七六五三〇九八八八五一 一 六四四三

# 第一章 注音符號

## 双唇聲

ㄅ……………ボ……………シリツボのボ（臺灣語の補）吸入する如く發音す。

ㄆ……………ポ……………一人ポツチのボ（臺灣語の譜）呼出する如く發音す。有氣聲。

ㄇ……………モ……………（臺灣語の上平的毛）

## 唇齒聲

ㄌ……………フォ……………（客語の火音）

## 舌尖聲

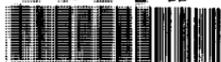
ㄋ……………トエ……………ヒトのトにエの語尾（臺灣語の島にエの語尾）

ㄏ……………トエ……………トリのトにエの語尾（臺灣語の對にエの語尾）

ㄏ……………ノにエの語尾。

ㄌ……………ロにエの語尾（臺灣語の老にエの語尾）

圖書圖書館



002855626

舌 後 聲

ㄍ……………コエ……………學校のㄍにエの語尾。カクゴウ

ㄎ……………コエ……………コレのㄍにエの語尾。

ㄏ……………ホエ……………ホにエの語尾。

舌 面 聲

ㄌ……………チ……………チエのチ(臺灣語の之)

ㄌ……………チ……………チの有氣聲(臺灣語の痴)

ㄌ……………ニ……………ニイサンのニ(北京語では使はず)

ㄌ……………シ……………唇を小さくする氣でシーと發す。

捲 舌 聲 (難音)

出……………ツ……………舌先を捲き上げて、上齒の後に押付け、ツと發音す。

イ……………舌を捲き上げてツ(有氣聲)と發音す。

尸……………スと發音す。

日……………ズと發音す。

舌 齒 聲

フ……………イの口形でツと發音す。

チ……………イの口形でツ(有氣聲)と發音す。

ム……………スと發音す。

單 韻 (齊齒呼)

丨……………唇を引きしめ齒を合せてイと發音す。

メ……………ウの音に近い

ロ……………口を丸くしてエ唇と發音す。

開 口 呼 (全開口呼)

ヤ……………アーメンのア(臺灣語の阿)

ㄛ……………オロシのオ(臺灣語の烏)

ㄝ……………オとエを同時に發音す。

ㄞ……………アイウエオのエ、但し唇を少し小さくす。

### 複 韻

ㄞ……………アイユクのアイ、アを稍強く。

ㄟ……………ㄝとーの合音、エイに近い。強く發音す。

ㄟ……………YとXの合音(臺灣語の歟音)

ㄟ……………ㄝとXの合音オウに近い。

### 附 聲 韻

ㄞ……………安心のアン(臺灣語の安)

ㄟ……………ㄝとンの合音、エンに近い。

ㄟ……………案外のアング(鼻音あり)

ㄥ……………ㄘとㄋの發音。

儿……………舌を捲いでㄘと發音す。

## 第一章 聲音の區別

### 一、四聲の記號と發音法

四聲は上平、下平、上聲、去聲の四種であることは上述の如くであるが、是を又た第一聲、第二聲、第三聲、第四聲とも稱する。そして或る文字が何聲に屬するかを知らしむる爲め、其の文字の四隅に□。圖の如く圈點を附するのであるが、即ち上平の場合には圈點を文字の左脚に附し、下平の時には圈點を文字の左肩に附し、上聲の場合には右肩に、去聲の時には之を右脚に施すのである。

一、上平（第一聲）その音の響が、平かに高底なく、何處までも「アー」と同じ調子に發音し、人の言葉を聽き肯定を與へる場合の「アーそうですか」の「アー」の如く發音する。

二、下平（第二聲）その音短かくして、始めは平易に發音し、音尾を強く揚げ、急に止める。

例へば人の言葉を聽き、反問する時の「エツそうですか」の「エツ」の發音の如き音調である。

三、上聲（第三聲）その音猛烈であつて、太く發音し長く引き延ばし、音尾を強く止める。  
例へば疲勞せる場合の「ア—ア疲れた」の「ア—ア」の如く發音する。

四、去聲（第四聲）その音低く下がるもので、強く發し音尾を微かに消ゆるに發音する。

例へば不意に驚いた場合、「アッびつくりした」の「アッ」の如き音調である

- 一 陰平 聲浪直而平（第一聲）
- 二 陽平 聲浪高而揚（第二聲）
- 三 上聲 聲浪灣而曲（第三聲）
- 四 去聲 聲浪遠而墜（第四聲）

## 二、四聲變化の規則

一、二個以上の文字が聯結して用ひてる、場合の聲音の變化

音の發聲上、自然的に四聲の變化を爲して讀まねばならぬ場合がある。つまり是は音便の上より來る變化であるが、是も言葉を話す時には是非記憶して置かねばならぬ規則である。



(A) 下平(第二聲)が二つ重なつた時、上の文字に重念が置かれてある場合には、下の文字は上平(第一聲)に變じて讀む。例へば

爺們(男子)は 爺們に變化し。

銀魚(白魚)は 銀魚に變化して讀む。

(B) 上聲(第三聲)が二つ重なつて、上の文字に重念が置かるゝ場合には、下の文字は上平(第一聲)に變化して讀む。例へば、

姐姐(姉)は 姐姐に讀み、

好好的(好く)は 好好的に變じて讀む。

(C) 上聲(第三聲)が重復し、下の文字に重念の置かるゝ場合には、上の文字の聲音は下平(第二聲)に變じて發音する。例へば

早。起ワセリ一又 (朝)は

早。起ワセリ一又 に變化し。

海。島フナク (島)は

海。島フナク に變して讀む。

(D) 去聲(第四聲)が重複し、上の文字に重念が置かるゝ場合には、下の文字が上平

(第一聲)に變して讀むのである。例へば、

月。亮リセカ一尤 (月)は

月。亮リセカ一尤 に讀み。

道。路カムカ (道)は

道。路カムカ に變して讀む。

(E) 去聲(第四聲)が重複し、下の文字に重念のある場合には、上の文字は下平(第二聲)

に變する

不。是フ (否)は

不。是フ に變化し。

一。一。様。(同じ)は

一。一。様。に變じて讀む

(F) 上平と上聲が連接し、上字が重念なれば下字は上平となる。

去X二 尸么  
多。少。(幾何)は

去X二 尸么  
多。少。と讀み

《X九 尸一  
光。景。(様子)は

《X九 尸一  
光。景。と變じて讀む

(G) 去聲と下平との連接し、上字に重念あれば下字は上平に讀む

去X二 尸么  
兵。船。(軍艦)は

去X二 尸么  
兵。船。となり

事。情。(仕事)は

事。情。に變化して讀む

(H) 下平と上聲が連接せる時、上字に重念あれば、下字は上平に讀む

山X一 尸一  
雲。彩。(雲)は

山X一 尸一  
雲。彩。と讀み

。頭なむ。髮ら（髮）は

。頭なむ。髮ら に變して讀む

此の外上聲三字重複せる時は、中の一字又は上の二字が下平となる、例へば。

。五X。百ハツ。兩リウ は。五X。百ハツ。兩リウ 又は。五X。百ハツ。兩リウ と讀み、上聲四字重複せる時は

交互に變化して 一イチ。七チ。八ハチ。不フ。多タ 等の文字は、次に去聲の文字の來る時は、音便

上、此等の文字が皆下平に變化して讀むのである。

第三章 簡易會話

第一課

一、他<sup>オヤ</sup>去<sup>ク</sup>麼<sup>マ</sup>？

彼は去りましたか

二、多<sup>カクエ</sup>啗<sup>ワラ</sup>去<sup>ク</sup>？

何時去りました

三、你<sup>オニ</sup>去<sup>ク</sup>不<sup>ク</sup>去<sup>ク</sup>？

君行きますか、行きませんか

四、怎<sup>ナニ</sup>麼<sup>マ</sup>呢<sup>ネ</sup>？

如何したんですか

第二課

五、他<sup>オヤ</sup>去<sup>ク</sup>不<sup>ク</sup>去<sup>ク</sup>？

他<sup>オヤ</sup>去<sup>ク</sup>。

彼は去りました

今<sup>イマ</sup>天<sup>テン</sup>去<sup>ク</sup>。

今日去りました

我<sup>ワ</sup>不<sup>ク</sup>去<sup>ク</sup>。

私は行きません

事<sup>コト</sup>情<sup>シヨウ</sup>忙<sup>マシ</sup>。

用事で忙がしいです

他<sup>オヤ</sup>不<sup>ク</sup>去<sup>ク</sup>。

彼は行きますか

六、<sup>ナ</sup>怎麼<sup>カ</sup>。不<sup>ク</sup>去<sup>ク</sup>。？

如何で行きませんか

七、<sup>ナ</sup>您<sup>カ</sup>去<sup>ク</sup>。罷<sup>マ</sup>？

貴方行つたらどうですか

八、<sup>カ</sup>多<sup>ク</sup>。走<sup>ル</sup>。？

何時行かれます

九、<sup>カ</sup>多<sup>ク</sup>。回<sup>ル</sup>。來<sup>ル</sup>。？

何時歸つて來ます

第三課

一〇、<sup>ナ</sup>您<sup>カ</sup>來<sup>マ</sup>了<sup>カ</sup>。？

来ましたか

彼は行きません

事<sup>ノ</sup>情<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>

用事が澤山あります

<sup>カ</sup>我<sup>カ</sup>要<sup>ム</sup>去<sup>ク</sup>

私は行きます

<sup>ア</sup>明<sup>ク</sup>天<sup>ニ</sup>走<sup>ル</sup>

明日行きます

<sup>ア</sup>後<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>回<sup>ル</sup>來<sup>ル</sup>

明後日歸つて來ます

<sup>カ</sup>來<sup>マ</sup>了<sup>カ</sup>

来ました

一一、您請坐？

請坐。請坐。

貴方お掛け下さ

どうぞお掛けな

一二、您請喝茶？

謝謝。你（磕頭。磕頭）

貴方お茶をお上り下さ

有りがたう

一三、您請抽煙罷？

我不會喫煙。

煙草をおつけ下さ

私は煙草を使ひません

一四、您用点兒点心？

隨便。隨便。

お菓子でも使ひな

多んりよなく戴きます

一五、我要告假了？

您忙甚麼多談罷。

私これで失禮します

貴方そんなに忙しいのですかゆつくりしなさい

第四課

一六、他走了麼？

走了。

彼は行ききましたか

一七、多。啜。走的。<sup>女×正 ㄇㄣ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ</sup> ？

何時行かれますか

一八、您。多。啜。走。<sup>ㄌㄨㄣ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ</sup> ？

貴方何時行きますか

一九、您。還。來。不。來。<sup>ㄌㄨㄣ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ</sup> ？

貴方は又來ますか

二〇、多。啜。再。來。<sup>ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ</sup> ？

何時又來ますか

第五課

二一、你。賣。了。麼。<sup>ㄌㄨㄣ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ</sup> ？

賣りましたか

行きました

昨天。晚上。<sup>ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ</sup>

昨日の晩です

明天。要。走。<sup>ㄇㄨㄣ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ</sup>

明日行きます

我。還。要。來。<sup>ㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ</sup>

私は又來ます

還。不。一。定。<sup>ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ</sup>

又定りません

賣。了。<sup>ㄉㄨㄛ ㄉㄨㄛ</sup>

賣りました

二二、賣給誰了？  
ウヲ 給 誰 了 ？  
誰に賣りましたか

二三、他買了幾個？  
オヤ 他 買 了 幾 個 ？  
彼は 何個買ひましたか

二四、你還有麼？  
オニ 你 還 有 麼 ？  
又 有 り ま す か

二五、多麼還來？  
オニ 多 麼 還 來 ？  
何 時 又 來 ま す か

第六課

二六、他到了沒有？  
オヤ 他 到 了 沒 有 ？  
彼は つき ました か、又 だ す か

二七、多麼到的？  
オニ 多 麼 到 的 ？

賣給他了。  
ウヲ 給 他 了 ？  
彼に賣りました

買了五個。  
ウヲ 買 了 五 個 ？  
五個買ひました

都賣完了。  
カク 都 賣 完 了 ？  
皆賣りました

那還不。一定。  
オニ 那 還 不 一 定 ？  
それは 又 定 り ませ ん

已經到了。  
オニ 已 經 到 了 ？  
既に つき ました

前天早起。  
オニ 前 天 早 起 ？  
く 一 早 女 一 早 男 一 早 女 一 早 男

何時つきましたか

二八、多。階。回。去。？

何時歸りますか

前日の朝です

明天。回。去。

明日歸ります

二九、幾。点。鐘。走。？

何時頃に行きます

响。午。走

正午に行きます

三〇、你。送。他。去。麼。？

君は彼を送りますか

我。要。送。去。

私も送ります

第七課

三一、您。去。了。没。有。？

貴方行きましたか、又ですか

我。没。去。

私行きません

三二、怎。麼。没。去。？

如何で行きませんか

没。有。工。夫

閑がありません

三三、他、已、經、走、了、罷、？

彼は既に行つたでせうか

早就、走了。

もう行きました

三四、還、回、來、不、回、來、？

又歸つて來ますか

還要、回、來、罷。

又歸つて來ますでせう

三五、一、定、回、來、麼、？

必ず歸つて來ますか

那、我、不、知、道。

それは私にも分りません

第 八 課

三六、這、是、甚、麼、？

これは何んです

是、点、心。

お菓子です

三七、是、甚、麼、点、心、？

何のお菓子ですか

中、國、的、点、心。

中國のお菓子です

三八、你、買、的、麼、？

你、買、的、麼、？

不、是、他、給、我、的。

不是他給我的

君が買ったのですか

三九、好吃、不好吃？

おいしいですか

很好吃、大變おいしいです

四〇、我吃。一個行麼？

私に一つ食べてもよろしいですか

行、你吃罷、どうぞ食べて下さい

第九課

四一、你做。甚麼哪？

君は何をしていますか

換衣。裳哪？

衣服を着換へてゐます

四二、你要。出去麼？

君は出かけますか

是、我要。出門

私も出かけます

四三、上。那兒去？

何處へ行きますか

上。街去。

街へ行きます

四四、有甚麼事？

買東。西。去。

何の用事ですか

買物に行きます

四五、等一等。我要去？

好。你快換衣裳。

しばらく待つて下さい私も行きます

貴方は早く着物を換えて下さい

「短語」

- 一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。
- 四十。五十。九十。一百。一千。一萬。一。百萬。

第十課

四六、你幾歲？

九歲了。

君は幾つですか

九歳です

四七、你認得字麼？

是。我識字。

君に文字を識つてゐますか

識つてゐます

四八、上。學了。麼？  
ト一ウ ト山セ カY

學校に行つてゐますか

上。學了。  
ト一ウ ト山セ カY

學校に行つてゐます

四九、甚麼。學校？  
尸ウ ヲY ト山セ ト一ム

どういふ學校ですか

公。學校。  
《X△ ト山セ ト一ム

公學校です

五〇、念的書都明白麼？  
コ一デ カニ 尸X カX カ一ム ヲ方 ヲY

讀んだものは皆解ります

大概。明白  
カY 《方 カ一ム ヲ方

だいたい分ります

第十課

五一、這。本書。是你的麼？  
出ハ ヲ方 尸X 尸一 カニ ヲY

この本は君のものですか

不是。我的  
カX 尸 X△ カニ

私のはありません

五二、不是。你的。是誰的？  
カX 尸 一 カニ 尸 ムX△ カニ

君でなかつたら誰の物ですか

是。我。朋友的  
尸 X△ カニ 一又 カニ

私の友人のです

五三、你借。來的麼？  
コ一リ 一セ 方方 カニ ヲY

你借。來的麼？

是。他。借。給。我的  
尸 一又 一セ 《△ X△ カニ

是他借給我的

君は借りて来たのですか

彼は私に借して呉れたのです

五四、

給我看看。行不行？

不行。

私にも借して見せてもよいですか

いけません

五五、

怎麼不行？

我還沒看完那。

如何でいけませんか

私は又すまないからです

第十一課

五六、

一年四季都是甚麼？

就是春夏秋冬。

一年四季は何と言ひますか

それは春夏秋冬です

五七、

天氣怎麼樣？

是好天氣。

天氣は如何ですか

よい天氣です

五八、

有風沒有？

一點風也沒有。

風はありますか

少しの風もありません

五九、外頭ウチカミ暖ヌク和罷ワカバ？

暖ヌク和的ワカク的ク很ワカ

外は暖いですか

大變暖いです

六〇、俗們ソコノヤク。逛逛ウツウツ去ク？

上ウヘ那兒ノコ。逛去ウツク。

我等は散步に行きますか

何處へ行つて散歩に行きますか

六一、上公ウヘノキミ。園去ウヅク罷ヤ？

很好ワカ。這就コノトコロ去ク。罷ヤ。

公園に行きますか

大變よろしい行きますか

「短語」今イマ。年トシ。明アカシ。年トシ。去ク。年トシ。前マヘ。年トシ。正マサ。月ツキ。二ニ。月ツキ。三ミ。月ツキ。

四シ。月ツキ。五イ。月ツキ。六ロク。月ツキ。七シチ。月ツキ。八ハチ。月ツキ。九ク。月ツキ。十ジュウ。月ツキ。

十ジュウ。一イチ。月ツキ。十二ジュウニ。月ツキ。冬フユ。至キ。月ツキ。臘リツ。月ツキ。

四季シキ。春ハル。天アメ。暖ヌク和ワカ。（春は暖かい）夏ナツ。天アメ。熱アツク。（夏は暑い）

秋アキ。天アメ。涼スズク快カク。（秋は涼しい）冬フユ。天アメ。冷ヒヤク。（冬は冷たい）

第四章 白話文短

第十三課

六二、昨天。您怎麼沒來？  
昨日は如何で来ませんか  
因爲有事。情

用事が有つたんです

六三、事情很多麼？  
戸く一ム「ラ」女X「Y」

用事多澤ありますか

大變用事が多いのです  
事情多的。很

六四、那麼明兒有工夫麼？  
「Y」「Y」「一」ル「一」又「X」「L」「E」X「Y」

それなら明日宋ありますか

又宋ありません

六五、每天都很忙麼？  
「ハ」女一「マ」女X「マ」「マ」

毎日忙しいのですか

毎日大變忙しいです

六六、幾時忙完呢？  
「ハ」一「ハ」「マ」X「マ」「マ」

何時になつてから宋ありますか

還得幾天罷  
又數日かかります

第十四課

六七、他。在。那兒？

女 Y 4-1 万 3 Y  
彼は何處に居ります

六八、樓上。做。甚麼。哪？

カ又 T-1 万 戸 2 正 P 万 万 Y  
二階で何をして居ますか

六九、和。誰。說。話。？

「万 戸 X 万 戸 X 正 「X Y  
誰と話をしていますか

七〇、我。上。去。行。麼。？

X 正 T-1 万 万 戸 T-1 万 万 Y  
私上つてもよいですか

七一、甚麼。緣。故。？

P 万 万 Y 戸 万 万 X  
どういふわけですか

他。在。樓上。

女 Y 4-1 万 万 又 T-1 万  
彼は二階に居ります

說。着。話。哪

「X 正 正 「X Y 3 Y  
お話をしています

和。一。個。親。戚。

「万 一 《正 万 万 万 万  
親戚の方です

你。別。上。去。

万 一 万 正 T-1 万 万 万  
上つてはいけません

他。們。商。量。事。情。

女 Y 万 万 万 万 万 万 万 万  
彼等は用件を相談をしています

第十五課

七二、您貴姓？

貴姓は何んとおつしやいますか

賤姓。楊

小生は楊と申します

七三、貴處是那兒

お國はどちらですか

敝處。北平

北平です

七四、您府上在那兒住？

お宅はどちらですか

舍下。在城裏頭

北平城内です

七五、您到這兒有幾年了？

貴方はここで何年居りましたか

纔兩年

僅か二年です

七六、您會說敵國話麼？

貴方は此の敵國の言語解りますか

不敢說會說

さうよくは解りません

七七、這一向公事忙不忙？

近頃の公務で忙しいですか

不大很忙

そう忙しいではありません

第十六課

七八、您會說中國話麼？

貴方は中國語話せますか

會說。一點兒

少し話せます

七九、是正經學的麼？

學校で習ひましたか

是在學校裏學的

學校で習ひました

八〇、先生是那國人？

先生は何處の國の人ですか

是做國人

本國人です

八一、學了幾年？

學んで何年なりましたか

學了。纔幾個月

學んで僅か二ヶ月です

八二、你說的不錯啊？

言語は説的よろしいですね

我還說不好哪

さうよくは出来ません

(短語) 先生。學校。學生。

上。學。

# 第五章 附錄

## 第一節

參考語句

1 物の數へ方……… 一封。信。(一通の手紙)。一架。鐘。(一個

の柱時計) 一。本書。(二冊の本)。一部。書。(一部の本) 一。把刀。

子。(刀一本) 一包。茶葉。(一包の茶) 一付。藥。一劑。藥。(第一

服) 一。朶花。(二枝の花) 一炷。香(線香一本) 一。雙。筷子。子。(箸一

對) 一。棵。樹。(一本の木) 一。領。蓆(ゴザ一枚) 一。面。鼓。(一個の太

鼓) 一。條。狗。一。條。長。蟲。(一匹の犬、一匹の蛇) 一。個。人。(一

人) 一副。衣。服。(一揃への着物) 一。盤。菜。(二皿の料理) 一。頭。牛

(二頭の牛)。一件。衣。裳。一件。事。情。(一枚のキモノ、一件の用事)。  
 一。細。柴。火。(一ククリの薪)。一塊。胰子。(石鹼一個)。一。頂帽。  
 子。(一個の帽子)。  
 身。體。の。各。部。……身。體。腦。袋。(頭)。腦。門。子。(額)。鼻。子。(ハナ)。  
 耳。朶。(耳)。眉。毛。(眉)。頭。髮。(髮)。眼。睛。(目)。腮。頰。嘴。巴。  
 (頰)。鬚。子。(ヒゲ)。嚙。子。(ノド)。脖子。(クビ)。肚。子。(ハラ)。肚。  
 臍。肚。臍。眼。(へん)。乳。奶。(乳)。胳膊。臂。(ウデ)指。頭(指)大。  
 拇。指。頭(親指)二。拇。指。頭(人差指)中。指。(中指)四。拇。指。  
 (無名指)小。拇。指。頭(小指)指。甲(爪)牙。齒(齒)胸。脯。胸。

膾カク（胸）ハ。嘴クサ（クチ）ハ。手テ、脚カク、腰ウシ、（テ、アシ、コシ）カク。屁カク。股カク、臀カク部カク。（シ

リ）肩カク。膀兒カク（肩）カク。手カク。掌兒カク（掌）カク。大便カク。大恭カク。屎カク（大便）カク。放カク

大。便カク。出恭カク。拉カク。屎カク（大便する）カク。放カク。屁カク。（屁を出す）カク。小便カク。（小便）カク

放カク。小便カク。撒カク。溺カク。（小便する）カク。下カク。巴カク。頰兒カク。（あご）カク

動物の名前……獅子カク。子カク。（シン）カク。老虎カク（トラ）カク。象カク（ゾウ）カク。狼カク（オホカミ）カク

豹カク。（ハウ）カク。駱駝カク（ラクダ）カク。鹿カク（シカ）カク。馬カク（ウマ）カク。狐カク。狸カク（キツネ）カク。猪カク

（ブタ）カク。羊カク（ヒツジ）カク。熊カク（クマ）カク。猫カク（ネコ）カク。狗カク（イヌ）カク。牛カク（ウシ）カク。驢カク（ロ

バ）兔カク子カク。（ウサギ）カク。猴兒カク（サル）カク。耗子カク。老鼠カク（ネズミ）カク。鳥兒カク

（トリ）カク。燕子カク子カク。（ツバメ）カク。鷹カク（タカ）カク。鳶カク。鷓鴣カク。鷹カク（トビ）カク。老鴿カク（鳥



慣用の語句

花。勤。娘。子。 (朝顔) 百。合。 (ユリ) 芍。藥。 (芍薬)

無。精。打。彩。 (意氣が阻喪する)

意。氣。揚。揚。 (意氣が揚々としてゐる)

何。曾。想。到。 (どうして思ひ及んだであらうか)

糸。毫。不。錯。 (一寸も違はない)

目。中。無。人。 (眼中人がない)

唇。亡。齒。寒。 (唇が亡んだら歯も寒からう)

牢。不。可。破。 (頑として破ることが出来ない)

忍。氣。吞。聲。 (強ひて我慢する形容)

前ク思ム後又想ト  
(前後の事をよく考へる)

念ニ念ニ不レ忘ル  
(心に思ひ込んで忘れない)

錦ウ上ル添フ花ハ  
(錦の上に又花を添へ加ふ)

雪ト中ニ送ル炭ヲ  
(雪中の人に炭を贈る)

袖ト手ヲ旁ニ觀ル  
(手を袖にして只見る許り)

正シ大キ光ト明ク  
(光明正大である)

豈ク有ル此ノ理カ  
(どうして此理があらうか)

半ヲ途ヲ而シテ廢ス  
(半ばでやめる)

抛ク頭ヲ露ヲ面ニ  
(人の前に顔をさらける)

上ノ人ガ行ク下ノ人ハ效ス  
(上の人が行ふと下の人ば倣ふ)

自。然。而。然。四然四然四然四  
(自然とそうなる)

未。便。開。口。四未四便四開四口四  
(それを云ふに都合が悪い)

外。強。中。乾。四外四強四中四乾四  
(見掛はよいが中味は空虚だ)

難。如。登。天。四難四如四登四天四  
(難しきこと天に登る様だ)

逍。遙。快。樂。四逍四遙四快四樂四  
(ふら／＼して遊び暮す)

怒。氣。冲。々。四怒四氣四冲四々四  
(甚だ怒ること)

不。可。救。藥。四不四可四救四藥四  
(薬で救ふことが出来な)

異。想。天。開。四異四想四天四開四  
(奇異な事を思出し、とつぴな事をする)

置。若。罔。聞。四置四若四罔四聞四  
(聞かない様に装つて抛つて置く)

第。三。節。俗。語。小。集

1 救。人。

救。人。一。命。勝。造。七。級。浮。圖。  
（人の命一人を救ふた功績は、七階の

塔を造るにも勝る。）

救。火。須。救。滅。救。人。須。救。徹。  
（人を救ふには、火が消える迄救ふべ

く、人を救ふには、徹底的に救はねばならぬ。）

大。丈。夫。當。以。救。人。爲。樂。  
（大丈夫たるものは、正に人を救ふを以て

樂しみとすべきだ。）

2 讀。書。

書。到。用。時。方。恨。少。事。非。經。過。不。知。難。  
（讀書はこれを用

ふる時に其少きを怨み、事は經過せねば其難さを知らない。）

宋<sup>ム</sup>朝<sup>ノ</sup>皇<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>。說<sup>ハ</sup>過<sup>ク</sup>。開<sup>キ</sup>卷<sup>ヲ</sup>。有<sup>リ</sup>益<sup>ト</sup>。  
ば益がある。)

讀書<sup>ヲ</sup>。有<sup>リ</sup>三<sup>ト</sup>。到<sup>ル</sup>。眼<sup>ニ</sup>到<sup>リ</sup>。心<sup>ニ</sup>到<sup>リ</sup>。口<sup>ニ</sup>到<sup>リ</sup>。  
目至る、心至る、口至る、これなり。)

3 士<sup>ノ</sup>心<sup>ヲ</sup>

士<sup>ノ</sup>爲<sup>シ</sup>。知<sup>ル</sup>。己<sup>ノ</sup>者<sup>ト</sup>。死<sup>ス</sup>。女<sup>ヲ</sup>爲<sup>シ</sup>。悅<sup>ム</sup>。己<sup>ノ</sup>者<sup>ト</sup>。容<sup>ム</sup>。  
女は自分の可愛がる人の爲に容る。)

士<sup>ノ</sup>可<sup>ク</sup>殺<sup>ス</sup>。而<sup>シテ</sup>不<sup>ク</sup>可<sup>ク</sup>辱<sup>ム</sup>。  
は出來ない。)

士<sup>ノ</sup>窮<sup>シ</sup>。見<sup>ル</sup>。節<sup>ヲ</sup>。義<sup>ヲ</sup>。世<sup>ノ</sup>亂<sup>ル</sup>。識<sup>ス</sup>。忠<sup>ヲ</sup>。臣<sup>ト</sup>。  
知る。)

酒色財氣四堵牆多。少明人在裏藏。有人跳出。

牆外去便。是長生不老方。(酒、色、金、怒は四の塀であるが、幾

多の頭ある人は其中にかくれて居る、若し誰か塀の外迄、跳出することが出来れば、それが即ち長生不老の方法である。)

一人向隅。萬人不歡。(一人が調子に合はぬと、凡ての人は不快に思ふ。)

夜宵非酌。酒思量日所爲。(夜は酒を飲まずに、其日になした事を

思へ。)

是非只爲多。開口煩惱皆因強出頭。(争論は多く口を開

くに起因し、心で悶ゆるのは、皆出すぎるからだ。)

來說是非者。便是是非人。(來りて人を批評し争論せしむるものは

即ち 争論せしむるものである。)

寧<sup>ニ</sup>爲<sup>ル</sup>爲<sup>ス</sup>鷄<sup>ト</sup>口<sup>ヲ</sup>無<sup>ク</sup>爲<sup>ス</sup>牛<sup>ノ</sup>後<sup>ヲ</sup>。  
(寧しう鷄の口たれ、牛の後となるなかれ。)

初<sup>メ</sup>生<sup>ル</sup>的<sup>ニ</sup>積<sup>ル</sup>兒<sup>ト</sup>不<sup>レ</sup>懼<sup>ル</sup>虎<sup>ヲ</sup>。  
(生れたての小牛は虎を懼れない。)

寧<sup>シ</sup>走<sup>ル</sup>十<sup>ニ</sup>步<sup>ヲ</sup>遠<sup>ク</sup>不<sup>レ</sup>走<sup>ル</sup>一<sup>ニ</sup>步<sup>ヲ</sup>險<sup>ヲ</sup>。  
(少し遠くても安全をとり、而して危険

ある近きを取らない。)

男<sup>ヲ</sup>怕<sup>ル</sup>輸<sup>ヲ</sup>筆<sup>ヲ</sup>女<sup>ヲ</sup>怕<sup>ル</sup>輸<sup>ヲ</sup>身<sup>ヲ</sup>。  
(男は筆を誤るを恐れ、女は身を誤るを恐る。)

一<sup>ニ</sup>人<sup>ノ</sup>難<sup>シ</sup>稱<sup>ス</sup>百<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>意<sup>ヲ</sup>。  
(一人で百人の意思に叶ひ難い。)

生<sup>ル</sup>行<sup>ハ</sup>莫<sup>ク</sup>入<sup>ル</sup>熟<sup>シ</sup>行<sup>ハ</sup>莫<sup>ク</sup>出<sup>ル</sup>。  
(生行に入るな、熟行は出るなかれ。)

寧<sup>シ</sup>折<sup>ル</sup>十<sup>ノ</sup>座<sup>ヲ</sup>廟<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>破<sup>ル</sup>一<sup>ノ</sup>門<sup>ヲ</sup>婚<sup>ス</sup>。  
(十個の廟を毀しても、一對の婚姻はこ

れを破るな。)

惱<sup>ム</sup>在<sup>リ</sup>心<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>笑<sup>ム</sup>在<sup>リ</sup>面<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>。  
(心で惱み、顔では笑つて居る。)

兔<sup>ウ</sup>死<sup>ム</sup>。狐<sup>フ</sup>悲<sup>カ</sup>。物<sup>モノ</sup>傷<sup>ケ</sup>。其<sup>レ</sup>類<sup>カ</sup>。(兔死んで狐が悲しむ、物は其類を傷むものだ。)

老<sup>カ</sup>王<sup>ウ</sup>的<sup>テ</sup>拳<sup>ケン</sup>頭<sup>トウ</sup>。砸<sup>ツ</sup>了<sup>ラ</sup>。老<sup>カ</sup>王<sup>ウ</sup>的<sup>テ</sup>眼<sup>ガン</sup>睛<sup>ジヤウ</sup>。(自ら事をなし、自ら禍を招く。)

寧<sup>ニヤウ</sup>作<sup>サ</sup>。太<sup>タイ</sup>平<sup>ヘイ</sup>犬<sup>ケン</sup>不<sup>フ</sup>作<sup>サ</sup>。離<sup>リ</sup>亂<sup>ラン</sup>民<sup>ミン</sup>。(太平の犬となつても、離亂の民とな

りたくない。)

丈<sup>シヤウ</sup>入<sup>ニ</sup>燈<sup>トウ</sup>。臺<sup>タイ</sup>照<sup>シヤウ</sup>。遠<sup>エン</sup>不<sup>フ</sup>照<sup>シヤウ</sup>。近<sup>キン</sup>。(大なる燈臺は遠く照して近くを照さない、他

人の缺點許り知つて、自分の缺點を知らない。)

不<sup>フ</sup>經<sup>キヤウ</sup>。一<sup>イツ</sup>事<sup>ジ</sup>不<sup>フ</sup>長<sup>チャウ</sup>。一<sup>イツ</sup>智<sup>チ</sup>。(一事を経ざれば、一智を長じない。)

寧<sup>ニヤウ</sup>可<sup>カ</sup>合<sup>ガフ</sup>。明<sup>メイ</sup>白<sup>ハク</sup>人<sup>ジン</sup>打<sup>ダ</sup>架<sup>カ</sup>不<sup>フ</sup>合<sup>ガフ</sup>。糊<sup>コ</sup>塗<sup>ト</sup>。人<sup>ジン</sup>說<sup>セツ</sup>句<sup>ク</sup>話<sup>ワ</sup>。(明白な

人と喧嘩しても、頑迷な人と話したくない。)

嘴<sup>クワイ</sup>上<sup>シヤウ</sup>沒<sup>マツ</sup>。毛<sup>モウ</sup>辦<sup>パン</sup>事<sup>ジ</sup>不<sup>フ</sup>牢<sup>ラウ</sup>。(口に毛がない間は、事を處理するに堅固でない。)

不聽。老人言。極惶在眼前。(老人の話が聞かなければ、困難は目前にある。)

靜坐。常思己過。閒談莫論。人非。(靜かに坐して己の過を考へ、閒談する時は人の非を論ずるな。)

不痴。不聾。不作阿姑阿翁。(時には痴となり、聾となりて、子女の罪を見逃してやらねば、舅姑になれない。)

不見可欲。便心不亂。(老子の言、欲する物を見なければ、心は亂れなす。)

5 謙恭

見人。要謙恭。說話要。和氣。萬不可驕傲。滿招。

損。謙。受。益。 (人に會へば親切謙遜ちだやかに話し、決して傲慢であつてはいけ

ない、満は捐を招き、謙は益を受く。

花。兒。好。還。得。綠。葉。扶。持。 (才能のある人も人の力を借らざれば、事を

爲す能はず。)

人。無。千。日。好。花。無。百。日。紅。 (人は千日よいと云ふことなく、花は百

日紅いと云ふことはない、益々謙遜の要がある。)

得。人。一。牛。還。人。一。馬。 (贈物を受ければ、返禮せねばならぬ。)

好。誇。嘴。的。大。夫。沒。好。藥。 (自慢する醫者にはよい藥はない。)

自。大。是。一。個。臭。字。 (自ら高ぶるものは臭の字だ。)

緊。防。怒。裡。性。慢。發。喜。中。言。 (怒はじつと押へて、しづかに和悦の

言葉を吐け。

人。一歩。登高。就。不認。得。老郷。親。（人一步高きに登れば、故郷の親類も顧みない。）

6 向。上。

不。受。苦。中。苦。難。爲。人。上。人。（苦中の苦を受けねば、人の上の人たるを得ない。）

得。了。屋。子。想。炕。（二つ叫べば又一つ、現在に満足せず。）

不。是。一。番。寒。徹。骨。怎。得。梅。花。撲。鼻。香。？（骨に徹する程

の寒冷に遇はざれば、どうして梅花が鼻を刺す如き香を放ち得やう？ 苦を嘗めて初めて安樂が得られる。）

人。上。有。人。天。外。有。天。（上には又上がある、何處迄努力してもつきるこ

とばなす。

7 知<sup>シ</sup>足<sup>ソク</sup>

無<sup>ム</sup>病<sup>ビョウ</sup>休<sup>キウ</sup>嫌<sup>ケン</sup>瘦<sup>シュウ</sup>身<sup>ミ</sup>安<sup>アン</sup>莫<sup>モク</sup>怨<sup>オン</sup>貧<sup>ヒン</sup>。  
(病がなければ瘦せてもいやと云ふ  
なよ、體が安ければ貧しくても怨むなよ。)

而<sup>ニ</sup>知<sup>チ</sup>足<sup>ソク</sup>者<sup>シャ</sup>常<sup>ジョウ</sup>樂<sup>ラク</sup>能<sup>ノウ</sup>忍<sup>ニン</sup>者<sup>シャ</sup>自<sup>ジ</sup>安<sup>アン</sup>。  
(足を知るものは常に楽しく、忍び得る  
ものは自ら安かである。)

有<sup>ユウ</sup>多<sup>タ</sup>大<sup>ダイ</sup>的<sup>テキ</sup>肚<sup>ツ</sup>兒<sup>ニ</sup>吃<sup>キョク</sup>多<sup>タ</sup>大<sup>ダイ</sup>的<sup>テキ</sup>飯<sup>ヘン</sup>兒<sup>ニ</sup>。  
(どれだけの腹があれば、ど  
れだけの飯を食べる。)

有<sup>ユウ</sup>福<sup>フク</sup>不<sup>フ</sup>在<sup>ザイ</sup>忙<sup>マウ</sup>無<sup>ム</sup>福<sup>フク</sup>跑<sup>ポウ</sup>斷<sup>タン</sup>腸<sup>チョウ</sup>。  
(福あれば急がなくても、自然に来る、  
福なければ腸が切れる迄奔走してもためだ。)

這<sup>エト</sup>山<sup>サン</sup>望<sup>バウ</sup>看<sup>カン</sup>那<sup>ナ</sup>山<sup>サン</sup>高<sup>コウ</sup>。  
(此山から望めば向ふの山が高い、他の職を欲しがらる。)

命。裏。有。時。終。須。有。命。裏。無。時。莫。強。求。  
にはある、運命上なければ強ひて求めるな。)

8 慎。重。

常。將。有。日。思。無。日。莫。到。無。時。思。有。時。  
を思ひ、無き時に有るを思ふな。)

人。見。利。而。不。見。害。魚。見。食。而。不。見。鈎。  
見ず、魚は餌を見て鈎を見なく。)

雨。後。送。傘。  
雨の後に傘を持って行く。)

肉。包。子。打。狗。一。去。不。回。來。  
肉饅頭で狗を打つ、出したら取れない。)

要。馬。兒。好。又。要。馬。兒。不。吃。草。那。就。難。了。  
るを思ふて、又草を食べないことを望む、それは無理だ。)

9 智識

只知其一。不知其二。(其一を知つて、其二を知らぬ。)

知無不言。言無不盡。(知れば云はざることなく、云へば盡きざることなし。)

畫虎畫皮難畫骨。知人知面不知心。(虎を畫くのに、皮

は畫き易いが、骨は畫きにくい。人を知るのに、顔は知り易いが、心は知り難い。)

對牛彈琴。(馬に念佛、相手知らずの談話。)

貓兒哭耗子。假慈悲。(猫が鼠を哭くのは、にせの慈悲だ。)

腹中有劍。裏藏刀。(腹に劍があつて、笑の中に刀をかくして居る。)

10 金錢

有。錢。就。有。朋。友。沒。錢。沒。人。理。  
（金があれば友達がある、金がないければ、人は相手にしない。）

人。貧。志。短。馬。瘦。毛。長。  
（人貧ならば志短く、馬瘦れば毛は長い。）

有。錢。難。買。回。頭。望。  
（金があつても、過去を買ひ戻すことは出来なし。）

酒。肉。朋。友。柴。米。夫。妻。  
（酒肉の友、柴米の夫妻。）

有。錢。堪。出。衆。  
（金があれば公の所へ行つても顔が立つ。）

巧。媳。婦。兒。做。不。出。沒。米。兒。的。粥。來。  
（伶俐な嫁も米のない粥は作られない。）

二。人。同。心。土。變。黃。金。  
（二人心を合すれば、土も變じて黄金となる。）

11 信。友

他交朋友巴結有錢的嫌貧愛富只有錦上添花。

花的。人。不見。雪裏送炭的。（彼は友と交るに金持ちを尊重して貧

者を嫌ふ、只錦上に花を添へる人許りで、雪中に炭を送る人を見ない。）

千里送鵝毛。禮輕人意重。（千里の遠方より鵝毛を送來す、禮は輕

くても情は重し。）

未觀其人先觀其友。（其人を見ない中に、先づ其友を見よ。）

近硃者赤近墨者黑。（朱に近ければ赤くなり、墨に近ければ黒くなる。）

反覆無常是眞小人。（反覆常なき人は、眞の小人なり。）

12 爲善

善有善報惡有惡報（善には善報があり、惡には惡報がある。）

逃了王法逃不得鬼神 (王法を逃れても、鬼神を逃れることは出来

なす)

道高一尺魔高一丈 (善はなし難く、悪はなし易し。)

上山擒虎易開口告人難 (山に登りて虎を擒るは易く、口を開き

て人に頼むは難し)

丈夫一言一駟馬難追 (男子の一言は、四匹の馬でも追付かれぬ。)

好事不出門惡事傳千里 (好事門を出でず、惡事千里に傳ふ。)

功虧一簣可惜執甚? (事殆んど成りて事を廢す、惜しむべき

限りだ)

一不做二不休 (一旦これを爲した以上、徹底的にさせ)

13 解脫

三寸氣。在。于。般。用。一。到。無。常。萬。事。休。  
て何事も出来る、無常の風一度来るや萬事休す。

爲。人。不。做。虧。心。事。半。夜。敲。門。心。不。驚。  
なま行をなせば、夜中に門を敲かるとも恐る。所はない。

浮。生。若。夢。一。轉。眼。就。過。去。了。呢。古。人。云。曾。記。少。  
年。騎。竹。馬。轉。眼。便。是。白。頭。翁。  
（浮世は夢の如くまた、く間に過ぎ去つて行きます。古人曰く、曾つて少年の時、竹馬に乗つた事はよく憶えてゐるが、すぐ白髪の翁に變まりました。）

九。泉。之。下。一。文。不。值。  
（九泉の下では、一文の価値もなす。）

民國 92 年度  
教育部 補助



中華民國玖拾叁年捌月卅日